

腰痛のブロック治療 について

麻酔科 増田 裕一

腰痛

腰痛とはその名のとおり腰が痛むことです。痛み方はチクチクとした刺すような痛みやずーんと重苦しい痛み、しびれを伴った痛みなどがあります。腰痛には日常生活に影響がない軽いものから、すぐに手術治療を行わなければならないものまで様々な程度の腰痛が存在します。

腰痛の原因

背骨のすきまから出ている腰の神経が障害を受けると腰痛が起こります。障害の原因として椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などの背骨の病気で腰の神経が圧迫を受けて起こるもの、帯状疱疹などにより直接神経が障害されて起こるもの、また内臓疾患が腰のあたりの皮膚表面に反映されて起こるものがあります。また心の病が腰痛を増幅させることもしばしば見受けられます。

治療の種類

腰痛の治療には安静、薬物治療、神経ブロック療法などがあります。外来診療の際、腰痛の患者さんに「まず安静が一番ですよ」と言ってはみるものの、仕事や家事がある方はなかなか安静が保てないのが現状です。腰のベルトやコルセットで安静を保っていただくことで痛みがだいぶ改善されることがあります。

老年病研究所附属病院 理念

1. 地域の人々の健康を守るための、研究と実践
2. 疾病の予防と治療に役立つ看護、介護の推進
3. 高齢社会における保健・医療・福祉のネットワーク作り

老年病研究所附属病院 基本方針

1. 最新医療の研究と実践
2. 質の高い安全な医療の提供
3. 多職種によるチーム医療の実践
4. 地域医療および社会への貢献
5. 職員教育の充実
6. 病院経営の安定

薬物治療には消炎鎮痛薬、末梢神経障害性疼痛治療薬、麻薬性鎮痛薬が用いられます。また抗うつ薬、抗けいれん薬、抗不整脈薬にも鎮痛効果があることが知られています。これらの西洋薬の治療で十分な効果が得られない患者さんには漢方薬による治療もあります。

神経ブロック療法とは腰痛の原因となっている痛んだ神経に直接、神経ブロック針という特殊な針を刺して痛みをとる治療法です。整形外科ではレントゲンの透視をしながら行う神経根ブロックを、麻酔科では脊髄の近くに針を入れる硬膜外ブロックを行っています。

硬膜外ブロック療法

脊髄は硬膜という膜に包まれています。硬

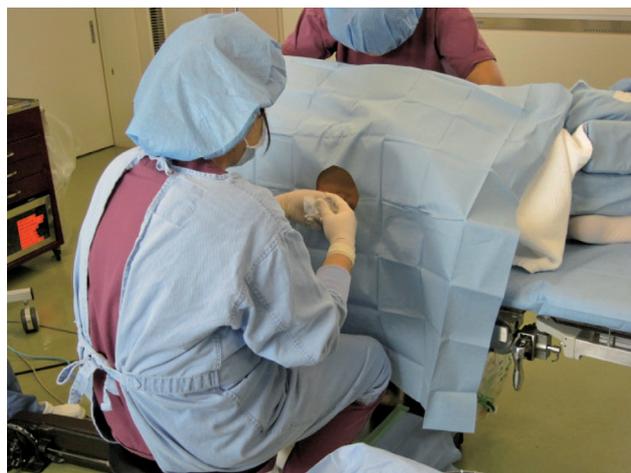
膜の内側には脳脊髄液という液体が脳から脊髄の間を循環しています。硬膜外ブロックはその名のとおり硬膜の外側ぎりぎりまで針を刺し、そこに麻酔のお薬を入れる治療法です。手術室で行われている硬膜の内側に直接麻酔薬を注入する脊髄麻酔とは違います。硬膜外ブロック注射は針を背骨の深いところまで刺しますので内出血を起こすと大変です。血液さらさらのお薬（抗血小板薬、抗凝固薬）を処方されている方にはブロック治療ができません。

治療は麻酔科外来で行っています。治療前に血圧を測定します。次に背中を突きだす感じでベッドに横になっていただきます。背中を消毒し清潔な布をかぶせます。

ブロック注射を行う場所に細い針で痛み止めの局所麻酔をします。皮膚表面の痛みを感じなくなったらブロック専用の針を刺します。針を目的の場所まで進め、麻酔のお薬を注入し治療は終了です。ブロック注射の後、足に

力が入りにくくなったり、一時的に血圧が下がったりすることがありますので30分程度ベッドで安静になっていただきます。

以上、腰痛のブロック治療を中心にご紹介させていただきました。腰痛に限らず、痛みで困っていらっしゃる方、麻酔科外来は月、水、金の午前中に行っていますのでお気軽にご相談ください。



手術室での硬膜外ブロック治療の様子

医療従事者向け講演会のお知らせ

- 日時：2019年4月16日（火）19:00～20:30
- 場所：老年病研究所附属病院 新館6階 講堂

特別講演Ⅰ

座長 群馬大学大学院医学系研究科
脳神経内科学 准教授 池田 将樹 先生

「認知症と生活習慣病治療について」

演者 老年病研究所附属病院
副院長 甘利 雅邦 先生

特別講演Ⅱ

座長 老年病研究所
所長 岡本 幸市 先生

「パーキンソン病は“振るえる”病気だと思いませんか？」
～パーキンソン病の早期発見と早期治療について～

演者 自治医大ステーション・ブレインクリニック
藤本 健一 先生

※講演会終了後、情報交換の場をご用意しております。

ドライブシミュレータの回復期病棟での活用について

リハビリテーション部 作業療法士 栗原 純一

当院での自動車運転再開に向けた取り組み

病気やけがによって障害を呈した方の社会復帰を考える上で自動車運転の再獲得は重要な要素の一つです。特に自動車社会である群馬県において自動車運転再開の可否は、生活に著しい変化および支障を来す可能性もあることから慎重な判断が必要といえます。

麻痺などの身体障害は一見すると分かりやすい病態であるのに対して、高次脳機能障害は一見しただけではどの程度保たれているか、運転適性があるかを見るのが難しい障害といえます。そのため、実際の動作や作業課題を通して見えてくる苦手な部分を把握し、どのように改善するかを対策する必要があります。

当院では、2012年にHONDA社製の「簡易型四輪ドライビングシミュレータ、セーフティナビ」を導入していて、模擬的な運転操作を通して、実践に近い運転体験や場面に適した反応の可否を確認する事が可能となりました。使用者数も年々増加傾向にあり、述べ1000人以上の方が自動車運転再開のためにドライブシミュレータを用いたリハビリテーションに取り組まれてきました。

ドライブシミュレータでは反応速度時間や誤り数など様々な数値が算出されます。人によっては、反応速度は速いけど判断の正確性が低かったり、反応速度は遅いけど正確に判断できていたり、その人の判断

力や運転特性が見えてきます。また、街中シミュレートでは、実際の運転状況に近い模擬的な運転の練習を行うことができます。自分がどのような運転をしたのかをリプレイ動画を通して、今の運転が病気の前とどう違うのか、どのような危険性があるのかを一緒に考えていきます。

運転ができるかどうかだけでなく、現状の自分をどのように認識しているかを判断するツールとしても活用しています。もちろん自動車運転再開のためのリハビリテーションはドライブシミュレータだけではありません。その他にも様々な評価を行い、時には実際に教習所に出向いて実車評価を行ったりもしています。

ぐんま自動車運転リハビリテーション研究会

2016年に群馬県内の複数の病院で連携して、自動車運転再開を考える「ぐんま自動車運転リハビリテーション研究会」を発足しています。当院も世話人として参加しており、自動車運転再開に向け県内で統一した支援方法を確立し、群馬県全体で標準的な支援が行えるようにしていくことを目的とした取り組みを行っています。





看護部 ～部署報告会を開催しました～



平成31年3月8日（金）当院看護部教育運営委員会主催により、新館6階講堂にて部署報告会を開催しました。外来や病棟等の9つの部署毎にテーマを決定し、1年間それぞれのテーマに対して学んできたこと・実践してきたこと等を発表する為の場となっています。発表後は質疑応答や感想を述べあい、聞く側も皆熱心にメモを取りながら自らの向上に繋げようと聞き入っていました。

本報告会は看護職員教育の一環として看護部全体が対象となっており、一部については院外の学会や研究会等でも発表しています。

今後も一人一人の看護師がより良い看護サービスの提供に繋がっていくよう、自己研鑽に努め看護部一同取り組んでいきます。



「外来のエキスパートを目指して」



「新体制病棟のリハ看護技術向上への取り組み」



4月の食事会のお知らせ



- 日時：平成31年4月5日（金）
12:00～講演会
12:30～食事会
- 場所：新館6階 講堂

『春の松花堂弁当』

～春野菜の栄養について～

- ・ たけのこご飯 ・ 菜の花のかきたま汁
- ・ 豚ロースの春キャベツソース ・ ふきと海老の炊き合わせ
- ・ うどとわかめの酢の物 ・ フルーツ

熱量 408kcal 蛋白質 22.8g 食物繊維 4.3g 塩分 2.1g

参加ご希望の方は病院受付にお申し込みください。会費 500 円です。

担当 管理栄養士 ときさ 木賊



ひまわりカフェ ～イベントのお知らせ～



☆どなたでもご参加いただけます

☆場 所：旧ひまわり保育園（建設会館南側角）

☆参加費：100 円（お茶代）

☆持ち込み企画も大歓迎

「ひまわりカフェで囲碁がしたい」「おしゃべりがしたい」など、自由な発想で本施設をご活用ください。

☆毎月末にイベント予定表をひまわりカフェ入口に設置しています。ご自由にお取りください。



詳細については下記担当までお問い合わせください。

前橋市地域包括支援センター西部（電話：027-255-3100）担当 山田

公益財団法人 老年病研究所附属病院

〒371-0847 群馬県前橋市大友町3-26-8 TEL 027-253-3311（代表） FAX 027-252-7575（代表）
E-mail: info@ronenbyo.or.jp ホームページアドレス <http://www.ronenbyo.or.jp/>

地域医療福祉連携室・相談室

TEL 027-253-4108 FAX 027-253-4135